

日本学術会議社会学委員会「Web 調査の課題に関する検討分科会」  
(第 24 期・第 2 回会合)

開催日時：平成 30 年 5 月 19 日（土）15:00-17:00

開催場所：お茶の水女子大学 大学本館 315 室

出席者：佐藤嘉倫、吉川徹、今田高俊、石井クンツ昌子、遠藤薫、川端亮、  
盛山和夫、玉野和志、前田忠彦、杉野勇

欠席者：大谷信介

議事要旨

1. 第 1 回会合議事要旨の確認
2. 特任連携会員の紹介  
お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授の杉野勇氏を特任連携会員としてお迎えした。
3. 「委員会等の議事録要旨の公開に関するガイドライン」（平成 30 年 3 月 30 日、日本学術会議第 261 回幹事会決定）について、佐藤委員長より説明があった。本分科会では、会議等開催後にメールにより出席者が議事要旨案の内容を確認し、出席者全員が確認したことを明らかにした上で、議長に承認を一任する形で議事要旨の承認を進める旨を合意した。
4. 杉野会員から WEB 調査のサンプリングフレームと回答モードに関する簡単なレクチャーを受けた。主な内容は次のとおり。
  - ① 日本と比較すると欧米ではランダムサンプリングを重視している傾向がある。
  - ② WEB 調査はランダムサンプリングではないが、広い意味でプリテストとして有効ではないかという意見もある。
  - ③ ランダムサンプリングと WEB 調査を組み合わせた push to web という方法もあるが、小規模な実施例での回収率は 19%で 3 割の達成は難しいだろう。
  - ④ 米国ではモード効果の研究があり、mixed mode は当たり前である。
  - ⑤ 近年はスマホで回答するケースが多く、かつ若い層と女性に回答が多い傾向がある。

その後、質疑応答と意見交換を行った。

5. 本分科会の今後の進め方として、3回程度に渡り、研究者、政府・地方自治体や企業関係者で **WEB** 調査に携わる方々から知見と話題を提供してもらい、その後、本分科会の提言や報告書について検討することとした。

6. 次回分科会の日程調整

7. その他

今後の分科会委員間の連絡や意見交換を促進するために、委員のメールアドレスを共有することについて、承認した。